

ガス炊飯器で炊いた おいしい新米を食べよう

ホームガス課
上田 耕也

まだまだ暑い日が続いていますが、農家では稻刈りの準備が進んでいます。今年ももう少しで新米の季節がやってきます。

秋は新米の季節。釜のふたを開けた瞬間、新米の甘い香りが立ち上がり、程よく水分を含んだ白く輝くごはんが顔をのぞかせます。どれたばかりの米のうま味を堪能できるのは、この時期ならではのぜいたくです。

新米をおいしく炊くコツは、

①研ぎ方

まずお米を研いだら、一番最初の濁った水は、新米が吸ってしまう前に手早く捨てましょう。ぬかの臭みが新米に浸透せず、美味しく炊けます。

その後は新米が割れてしまわないよう、優しく3~4回軽く水洗いして、すすぎは1回程度で大丈夫です。水が半透明になつたらOKです。

②浸水

水に浸す時間は30分~1時間程です。あまり長い時間浸すと、軟らかく炊けすぎてしまう可能性があります。

ただし、近頃の炊飯器は研いですぐのお米でも、自動的に気泡水をさせて、それから炊き上げるタイプが多くなっていますので、そういう炊飯器の場合は、好みにもありますが、浸水時間を取らなくても良いかもしれません。

お米は2時間でほぼ100%お水を吸い込んだ状態になりますので、それ以上浸水すると、お米がふやけて食感も風味も落ちてしまうので注意してください。

③水の量

新米の水加減は、いつもの分量より10%ほど減らします。分かりやすく言うと、炊飯器のメモリの太い線の1mmか2mm下ぐらいから試してみてください。

好みで水の分量を少し変えたりして、お好きな食べ方を探してください。

④炊き上がり後

炊き上がったら、すぐに底から空気を入れるようにほぐして混ぜます。通常は炊き上がったら、10分~15分ぐらい蒸らすと良いですが、新米の場合はあまり蒸らす必要はありません。

そして、お米を炊くのはやっぱりガス炊飯器が一番。

ガス炊飯器というと「大型の業務用」「昔っぽい」という印象があるかもしれません、実はご飯がとても美味しい炊ける優れた製品なのです。

ガス炊飯器の炊き方は「かまど」と同じ原理でガスの強い火力で一気に炊くので、一升以上の大量炊飯にも適しています。

誰にでも「かまど炊き」に近いシャッキリとした味や香ばしいおこげを楽しむことができ、その美味しさは高級電気炊飯器を超えるともいわれます。

ぜひ、ガス炊飯器で炊いたお米のおいしさを体験してみて下さい。

現在、国民1人が1年間に食べているお米は、1962年の118.3kgをピークに年々減少していく、2022年では50.7kgと約半分の消費量となっています。

ここまでお米の消費が減少している理由には、食生活の多様化、少子高齢化、世帯構造の変化などさまざまな要因が挙げられ今後もさらに加速していくと考えられています。

日本人とは切っても切れない主食はお米です。今年の秋はガス炊飯器を使ったおいしい新米を食べてみてはいかがでしょうか。



カーボンニュートラルLPGの 取り扱いを開始しました

代表取締役社長 家喜 正治

「カーボンニュートラル」という言葉に、皆さんももう何度となく触れて頂いてることと思います。弊社発行のアポロ新聞2021年11月号にも記事として吉澤社員が取り上げてくれました。(弊社ホームページからはアポロ新聞のバックナンバーを公開しておりますので、再読が可能です)

日本国のみならず、世界的、地球的規模での取り組みが求められている中で、私どもが何か出来ることはないのかと言うことを自問自答していてたどり着いたのが、カーボンニュートラルLPGです。この度、当社が直接プロパンガスを販売している一般ご家庭様向けに、カーボンニュートラルLPGを導入させて頂きます。脱炭素社会への対応・地球環境への貢献に向けたアポロ興産の姿勢の現れとしてご認識頂ければ幸いです。(なお、ご家庭でご利用頂くプロパンガスに、カーボンニュートラルLPGを導入したのは当社が全国で初の試みとなります)

ここで、今一度カーボンニュートラルの仕組みをおさらいします。我々の生活活動において発生・排出された「二酸化炭素等の温室効果ガス」を何らかの仕組みによって吸収・除去を行い、結果として「二酸化炭素等の温室効果ガス（カーボン）」を「中立（ニュートラル）」にすることをカーボンニュートラルと称します。

すなわち、カーボンニュートラルLPGとは、LPGの生産から消費する間に発生する「カーボン」を、森林や湿原の保全等の取り組みにより吸収して「ニュートラル」にするLPGとなります。難しいことはありません。一般家庭の皆さまが、今までと同じようにプロパンガスを使って頂くだけです。日々の生活の中で、温室効果ガスの削減に取り組んで頂けることとなります。プロパンガスの品質に関しましても、今までと一切変わりませんし、新たに設備等を買い換えて頂くこともありませんのでご安心下さい。

近い将来には、化石燃料由来ではなくバイオテクノロジー等の技術による合成LPGが出てくるとも言われていますが、その時が来るまでの現実的な地球温暖化対策の手段としてカーボンニュートラルLPGは最も優れていると確信しています。

この伊賀の地から先陣を切って、カーボンニュートラルへの先進的な行動を一般家庭の皆さまと行うことが出来ること、大変有り難く思っております。これからも当社の地球温暖化対策への取り組みにご理解、ご支援賜りますよう、心からお願い申し上げます。



Carbon Neutral LPG

詳細解説

カーボンニュートラルLPGはVCS(Verified Carbon Standard)で認証されたクレジットを用いてCO₂をオフセットしています。VCSとは、VERRA(米国の非営利団体)が運営するクレジット認証基準です。2005年に設立された、現在、世界で最も広く利用されている自主的GHG(温室効果ガス)オフセットプログラムであり、森林吸収や土地利用に関するプロジェクトから湿地保全を通じた排出削減プロジェクトまで幅広いプロジェクトが実施されています。

なお、導入したカーボンニュートラルLPGは、プロパンガス1トンのLCA^(※1)におけるCO₂排出量3.3トンをオフセットしています^(※2)。

(※1)LCA(ライフサイクルアセスメント)とは、製品やサービスのライフサイクル全体(資源採取→原料生産→製品生産→流通・消費→廃棄・リサイクル)又はその特定段階における環境負荷を定量的に評価する手法です。

(※2) 日本工業大学調査(2009年)では、LPG単位発熱量当たりのCO₂排出量(65.71g-CO₂/MJ)となっており、それを基に計算するとLPG1tあたり3.3tCO₂なります。(※LPG1tあたりの熱量:50.08GJ/t-LPG)